

学校等における熱中症による死亡事件事例

◆R3年度 中3男子

- ・陸上競技場での競技大会中、400m走のゴール直後に倒れた。
救急車で病院に搬送され、治療を受けたが死亡。

◆R5年度 中1女子

- ・部活動(20分おきに10分休憩し水分補給して実施)の活動後、下校中に倒れているところを発見された。
救急車で病院に搬送され、治療を受けたが死亡。

◆R6年度 高2男子

- ・運動場で活動中、体調不良を訴えた。水分補給をして、いったん回復したが、その後倒れた。
救急車で病院に搬送され、治療を受けたが死亡。

上記の事例からは、活動中に休憩や水分補給をしていたり、活動中は体調に変調がなくても、活動後に症状が現れることがあること、また、一度体調が回復しても、その後に症状が悪化する場合があります。スポーツなど、体を動かしている時には体が熱を発するため、熱中症の危険がより高まります。また、夏の初め頃や梅雨の合間など体が暑さに慣れていない時期に急に暑くなった日や、湿度が高く風の弱い蒸し暑い日にスポーツをすると、気温があまり高くなくても熱中症にかかる危険性があります。

熱中症は、死に至る緊急事態です。熱中症の危険がある暑さ指数が31℃以上の場合はすぐに運動を中止し、暑さ指数が31℃未満の場合でも参加者の健康観察を行い、中止を含めて活動時間や活動内容の変更を行ってください。